

危険なスズメバチ！注意してください！！



体長は約3センチから5センチ近くもあります。お尻(腹部の先端にある強力な針で外敵を刺し、強い毒液を注入します。



春先や夏は飛来しても比較のおなし
いスズメバチですが、**秋がづく**と
途端に気が荒くなりがちで

す。特に8月の終わり～10月にかけて被害が多く、その中でももっとも被害が集中するのが**9月**だそうです。毎年何人もの人が、このハチに刺されています。スズメバチに刺されないためにはどこに気をつければいいのでしょうか？

オオスズメバチから身を守る方法



★服装に注意

スズメバチやミツバチは、黒くて動くものに対して攻撃する性質があります。これは、よく巣を襲うクマに対する防衛本能だといわれています。スズメバチがいそうな場所へ行くときは、**黒い服装は避けましょう。**

黒髪も帽子をかぶるなどして隠すべきです。香水や整髪料などの中には、ハチを興奮させるものがあります。自然の中へ出かけるときは化粧品はできるだけ使わないようにしましょう。

★ハチを刺激しない — 探索中のハチに合ったとき

林の中で、獲物を探しているオオスズメバチに合うことがあります。あまりに大きいので、近くに飛んでくるとパニックになって、逃げ回ったり、追い払おうと手を振り回したりしがちですが、それはハチを怒らせる行為です。ハチは自分が攻撃されていると勘違いして、身を守るために反撃してきます。探索中のハチは人に合っただけで刺したりはしません。**じっと動かないでやり過**

ごすのが正しい対処法です。たとえハチが体にとまったとしても、身

動きしなければそのうち飛び去って行きます

けれども一度攻撃を始めたスズメバチはミツバチとは違い、何度でも毒嚢に毒がある限り毒針を抜き差ししますので、ご注意ください。刺したら蜂が死ぬと思ってその場に留まると、何度も刺されます。

万一刺されたら

まず、注入された毒液を速やかにかつできるだけ多く取り除くことが重要です。ハチの毒は水に溶けるので、刺された部分を両手の指で強くつまんで毒を絞り出しながら水で洗い流します。毒を薄めることと、熱を冷ますことが必要です。

刺傷部位に虫刺され薬（抗ヒスタミン軟膏・副腎皮質ホルモン軟膏など）を塗ります。よく蜂に刺されたらアンモニアが効くという言い伝えがあ

りますが、アンモニアは蜂刺されには全く効能がありません。

ご注意ください。

応急処置が済んだら、すぐに近くの病院へ行きましょう。ショックの兆候が見られたら、救急車を呼ぶことも考えましょう。もしアナフィラキシーショックが起きると、短時間のうちに危篤状態になります。ゆっくりしている余裕はありません。なお、ハチ毒に対する抗体ができていかどうかは病院で調べてもらえます。

他のハチに刺さされただけでも、スズメバチの毒に対する抗体ができることがあるそうです。（すべての人に抗体ができて、ショックが起こるわけではありません。）



「アナフィラキシーショック」とは……

これは一種の抗原抗体反応（アレルギー反応）です。最初に刺されたとき、その毒（タンパク質の一種）に対する抗体が体の中に入ることができるため、

2度目に刺されたときに、毒(抗原)に抗体が激しく反応して強いショック症状を起こします。

このうち、呼吸困難や血圧低下などの全身的な反応をアナフィラキシーと呼び、生死にわたる重篤な症状を伴うものをアナフィラキシーショックといいます。

ハチ刺されによる死亡例は、ほとんどがアナフィラキシーショックによる血圧の低下と気道の浮腫による呼吸困難が原因です。ショック症状は顔を含む頭部や頸部を刺され場合に多く発現する傾向がみられ、極めて短時間(刺傷後数分～10数分)で症状が現れず、症状がでるまでの時間が短い程重症になる可能性が高く危険です。少しでも変わった症状がみられたら速やかに医療機関を受診してください。



8月中旬に最も大きくなる
←スズメバチの巣



強いあごを持つ大スズメ→ バチの頭部